

日常の申に輝く
歴史と文化の足跡

たくせいびょう
▼ 多久聖廟

宝永5年(1708年)に多久茂文公が孔子像を安置し創建。領民が「敬」の心を培えるようにという茂文公の思いが込められています。建築様式は禅宗様仏堂形式と呼ばれる日本の代表的なもので、彫刻や文様を施して中国的な雰囲気演出。創建以来春と秋に催されている積菜の時期を中心に、多くの人でにぎわっています。



時を超えた感動が心を彩る

悠久の時を温める緑園で



手作りひな飾りなど
季節のイベントで
華やかに!



▼ 歴史を感じる故郷の風景

長い年月をかけ、文教の里として人々を育んできた多久市。市民の心の拠りどころとして、緑で癒やされる空間として、愛され続ける数々の場所があります。

炭鉱王・高取伊好が私財を投じて整えた西溪公園では、桜や紅葉を季節ごとに楽しめると人気です。郷土資料館や先覚者資料館、公会堂「寒鷲亭」も公園内にあります。

ゆったりとした時の流れを感じられる場所も多数。西多久町の森家・川打家住宅は佐賀のくど造りの原型を伝えるもので建築学上極めて価値が高く、見学・利用ができます。東多久町には竪坑櫓が残され、炭鉱で栄えた時代に思いを馳せてみるのもおすすめです。

四季折々の多久の鮮やかな色彩が、きっとあなたにときめきを与えてくれるでしょう。

1. 多久市郷土資料館：先覚者資料館、歴史民俗資料館も併設され、長い歴史を辿れる。
2. 寒鷲亭：公会堂として高取伊好が寄贈した。
3. 東原原舎：茂文公が「領民の教育が何よりも大切」と開いた学問所。
4. 森家・川打家住宅：くど造り民家。春には地元有志が手作りひな飾りを展示する。
5. 西溪公園：高取伊好像が見守る公園。春には桜、秋には紅葉が麗しい。
6. 旧三菱古賀山炭鉱の竪坑櫓：多久に繁栄をもたらした炭鉱採掘の歴史を垣間見る。

